

環境マネジメントシステム導入報告書

( 宛 先 ) 京 都 市 長	平成 25 年 7 月 31 日
報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都市右京区西院溝崎町 2 1	報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） ローム株式会社 代表取締役社長 澤村 諭

京都市地球温暖化対策条例第22条第2項の規定により報告します。	
環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	ISO14001
適 用 範 囲	ローム株式会社本社内のLSI生産本部、調達部、ディスクリー ト生産本部、モジュール生産本部、管理本部環境管理部、LSI 商品開発本部の関係する項目。
導 入 年 月 日	1998年 5月 29日
認 証 番 号	JQA-EM0170
基 本 方 針	われわれは、つねに地球環境保全に配慮し、人類の健康的な存続と企業の恒久的な繁栄に貢献するものとする。 1. 省エネルギーをすべての企業活動で創意工夫し徹底する。 2. 環境配慮型製品を開発し、製品のライフサイクルを通して環境負荷の最小化を追及する。 3. 材料・副資材の調達や製品の購入は、より環境負荷の少ないものを優先する。 4. 国内外の環境法規制や地域協定を遵守する。 5. 生活環境や地球環境に配慮する社員の育成と関係者の啓蒙に努める。 6. 地域環境への貢献や環境情報の適切な開示により社会との健全な連携を図る。
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	1. 拠点におけるCO2対策 ①CO2排出量を2012年度に2010年度実績より4%削減する。 ②CO2排出量原単位を2012年度に2010年度実績より3%削減する。 ③温室効果ガス（PFCs、SF6等）排出量を2012年度に1995年度実績より89%削減する。 以下の項目についての細目は省略 2. バリューチェーンを通じたCO2対策 3. 環境負荷の削減 4. 資源の有効活用
目標を達成するための取組の内容	1. 拠点におけるCO2対策 ・生産拠点統合によるL研装置停止 ・AUラインの半研3Fへの移設・集約による付帯設備電力の削減 ・蛍光灯のLED照明化 ・PFC使用量の監視 2. バリューチェーンを通じたCO2対策 ・バリューチェーンCO2を把握する為の仕組みの構築 ・売上高に占める環境配慮型製品の割合アップ 3. 環境負荷の削減 ・PRTTR対象物質の取扱量原単位の削減 ・VOC排出量の削減 4. 資源の有効活用 ・ゼロエミッションの継続（再生資源化率99%以上） ・廃棄物排出量原単位の削減
目標を達成するための取組の進捗状況	各項目の活動を実施完了。
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	上記目標に対し 1. 拠点におけるCO2対策 【目標】①、②、③達成 2. バリューチェーンを通じたCO2対策 【目標】①達成②未達成 3. 環境負荷の削減 【目標】①、②達成 4. 資源の有効活用 【目標】①-1、④達成・①-2、③未達成
事業活動に係る法令の遵守の状況	遵守状況に問題無し。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	2012年度審査結果は以下の通り ストロングポイント：2件、グッドポイント：3件 カテゴリーA・B：共に0件、改善の機会：11件

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合のみ記入してください。